

の市福祉プラザであった。
一般社団法人「貞山運河ネ
ット」(名取市)が主催し、
約160人が参加した。

パネル討論で郷土史家の
菅野正道氏は、仙台藩が運
河の一部の「木曳堀」を1
605年前後に建設した経
緯を紹介。名取市閉上につ
いて「江戸時代前半までは
交易の港だった。人口が増
えた仙台に海産物を供給す
る役割を担い、漁港へと変
化した」と説明した。

貞山運河の歴史 市民らが深掘り

仙台でセミナー

仙台湾岸を流れる貞山運
河の歴史について学ぶセミ
ナーが26日、仙台市青葉区

東北学院大の斎藤善之教
授(経営史)は、明治時代
初期に「新堀」の建設計画
が始まり、阿武隈川を蒸気
船が通っていたことを当時
の資料などで確認したと話
した。
若林区の佐藤喜代子さん

貞山運河の歴史について話す菅
野氏(左)と斎藤教授



(62)は「仙台に長く住んで
いるが、地元の歴史を知ら
なかった。もっと多くの
人が歴史に触れる機会があ
ってもいい」と語った。

貞山運河は木材輸送など
を目的に江戸期と明治期に
できた木曳堀、新堀、御舟
入堀の総称。現在の全長は
26・5キロ。